

観 察

第十三週

かたつむり

梅雨から梅雨明けにかけての幼稚園の動物での人気者はかたつむりであらう。言ふ迄もなく軟體動物であり、腹足類・有肺目に屬してゐる。一口にかたつむり、デン／＼蟲と言ふけれど、その中にはいろいろ／＼な種類がある。關西地方に普通な「くちべにまひまひ」は殻が右旋で殻の口が淡紅色なのでその名がある。關東地方に普通なのは「みすぢまひ／＼」で褐色帯が三條ある故この名がある。九州に普通なのは「みすぢまひ／＼」。その他「ひだりまきまひ／＼」は左巻である事が珍らしく關東及び中部の地方に分布してゐる。

大ていこの様なものであるが、みつけたならばガラス槽

手 技

で飼ふのも面白い。土を入れて食物として木の葉（桑の葉を好むものが多い）こけの類を與へてゐる。觀察方法としてごくべつに言ふ迄もない。子供のそれにむしろ引かれて發展させて行くべきであると思ふ。

七夕まつり、笹

（年少組参照）年少組の時には、色紙や短冊をゆひつける物についてより、つけるものゝ興味で一ぱいであつたが、年長組になるに笹にも一つ注意をむけやう、普通の木との相違を、何か具體的な例を出して比較させてもよい。が吳も理科教授にならない様に、そして笹を觀察させる事も七夕祭りの興味への一つである事を考へてし度いものである。

第十三週

自由畫 自在 一回

木 一回

園庭の立木の寫生をする

粘 土 自在 一回

鈇仕事 水鳥 一回

水鳥の形を臆寫して左右兩面をつくり、これに底をつけて、白のクレヨン或は蠟をぬつて水に浮ぶやうにつ

くる。

七夕まつり

いろ紙を色紙、短冊の形に切つてタナバタサマ 天ノ

川 なぎかゝせ、幼児の名なぎも片假名で毛筆でかゝ

せる